

おおさわ学園



おおさわ学園

## 平成30年度 おおさわ学園の評価・検証 結果報告

検証項目	<b>1 コミュニティ・スクールの運営</b>	
目標	将来にわたり、持続可能で発展的なCSづくり	
取組	CS委員会の回数を2回減らし、その分、CS委員が直接学校を見に行ったり、教職員との懇談会を開催したり、学校現場と地域の双方の声を学園運営に反映させる。	
	成果	課題と改善方策
① 委員会の負担軽減について 委員会回数を1回減らし、委員会内で部会を開催することで部会回数を減らし、また委員会内で情報共有を行う等により委員の負担軽減につながった。	<p><b>【課題】</b></p> <p>①負担軽減のため委員会回数を増やさない一方、次年度から新しい委員が増えるので、学園・学校の取組や委員会の活動を理解できるよう時間をとる工夫が必要。</p> <p>②学校・地域双方向の声を学園運営に反映させる仕組みとして『先生方との懇談会』や『地域の皆様とお話しとふれ合いの会』を継続したいが、日程の調整が難しい。</p> <p><b>【改善方策】</b></p> <p>①『委員のための活動ハンドブック』やCS推進員のアーカイブ機能を活用し、新委員への引継ぎを円滑に進める。</p> <p>②前半にCS委員が学ぶ時間を取る熟議を、タイミングをはかっている、『先生方との懇談会』『地域の皆様とお話しとふれ合いの会』を実施するなどの点に考慮しながら年間計画を考える。</p>	
② 学校と地域双方向の声を学園運営に反映させる仕組みの確立について 3校の教員との懇談会を実施し、見えてきた課題を基に委員会で熟議を行った。課題を地域・保護者と共有する『お話しとふれ合いの会』を以下の通り2回開催。学校・保護者・地域との共通理解を十分に図ることができた。 ・2/6『七中生と地域と一緒に考える七中ボランティア』（子ども熟議） ・3/7『おおさわ学園CS井戸端会議』（主に保護者対象講演会と座談会）		

検証項目	<b>2 小・中一貫教育校としての教育活動</b>	
目標	交流活動の充実	
取組	小・中9年間を見通しての今日的な課題「コミュニケーション」「教育支援」「保護者対応」の3点について講演会やワーキングを含めた研修を実施し課題解決力を高める。	
	成果	課題と改善方策
今年度は、おおさわ学園開園10周年であった。「10周年プロジェクトチーム」を学園教職員で組織し、「学園のつどい」と「記念式典」（11月17日）を中心に、年間を通して開園10周年に取り組むことができた。特に、学園生が一堂に会して活動したことにより学園の意識は高揚した。 学園研究会は、5回実施した。今年度のテーマに基づき、6月20日「ベーシック・リスニングスキル」8月30日「授業のユニバーサルデザイン化」10月3日「実践的な保護者の対応」について開催した。それぞれ講義、グループ活動、エクササイズ、演習等も取り入れながら充実の研究会となった。 特に、8月30日を「おおさわ学園の一日」とし、学園研究会や学園の諸会議を集中して設定した。4つの部会での生活指導情報交換会、小中の交流もかねた昼食は、教職員の交流に大きく寄与した。	<p><b>【課題】</b></p> <p>学園行事実施に対して、教員連携の不十分さや共通理解の不徹底があげられる。学園起案の徹底を図っていくと同時に、学園回覧板や掲示板の有効利用及び職員会議等における連絡事項の内容やタイミングの統一を図る。</p> <p><b>【改善方策】</b></p> <p>計画通り実施した。講師選択や研修内容も適切であった。</p> <p>次年度は、「学力向上を目指したおおさわ学園カリキュラム作り」を主題とし、学園生の実態把握と課題分析を踏まえ、「三鷹市小・中一貫カリキュラム（暫定版）」を基にした学園カリキュラムの作成と研究授業を実施する。教科分科会及び総合的な学習の時間見直しチームを組織し、6回の学園研究会（内3回は研究授業）を実施する。また、教育支援の研修と生活指導情報交換は、次年度も実施する。研究を中心にして小・中一貫教育を支えていく。</p>	

検証項目	<b>3 (知) 確かな学力</b>	
目標	主体的・対話的で深い学びの推進	
取組	各校での校内研究や授業実践を通じて「主体的・対話的で深い学び」を取り入れながら授業改善を図る。	
	成果	課題と改善方策
	<p>新学習指導要領全面実施に向けて、教員の研修も進んでおり、小学校2校の教員の93%以上が「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた授業改善に取り組んでいると答えている。</p> <p>また、中学校で生徒による授業評価でも、肯定率が全教科で80%以上となっている。</p> <p>さらに、3校とも「みたか地域未来塾」の活動が定着し、児童・生徒の意欲喚起や学習習慣の定着に役立っている。</p>	<p><b>【課題】</b> 国及び都の学力調査の結果がわずかながら都の平均を下回っている。学力の二極化も見られる。特に、「読み取る力」は、改善してきてはいるが、依然として課題である。</p> <p><b>【改善方策】</b> 基礎的・基本的な学力の向上を目指して、学園研究や校内研究を通して、「おおさわ学園小・中カリキュラム」の改訂を進めながら、授業改善に取り組んでいく。</p>

検証項目	<b>4 (徳) 豊かな人間性</b>	
目標	心の教育の充実	
取組	地域社会との幅広い交流の中で、地域の文化継承・発展に寄与し、参加やボランティア活動を通して地域を愛する児童・生徒を育成し豊かな人間性を育む。	
	成果	課題と改善方策
	<p>全国学力・学習状況調査で「地域のボランティア活動に参加したことがある」と答えた児童・生徒が、大沢台小では全国平均より20.3ポイント、羽沢小は11.5、七中は37.6も高い。年間を通じ地域団体（青少対、交通対、防災会、ほたるの里、町会等）の行事に多くの児童・生徒が積極的に参加した。地域住民とふれあう中で社会性・協調性が育まれ、地域に貢献したいという奉仕の精神も生まれている。また、同調査で「自分にはよいところがあると思う」と答えた児童・生徒が、全国平均より、大沢台小では6.1、羽沢小では27.8、七中では2.8高い。多くの人に認められる経験が自己肯定感の向上につながっている。</p>	<p><b>【課題】</b> 「地域の子どもは地域で育てる」という地域社会の意識が、高齢化等を原因として、徐々に弱体化している点がある。子どもとどう接するべきかと迷う場面があり、子どもも大人とのコミュニケーションに遠慮してしまうことがある。</p> <p><b>【改善方策】</b> 地域行事の打合せ等の機会を捉え、学校側から、次代を担う地域の子ども達を社会で育てることの重要性と、子どもに対する具体的なサポート方法を伝えていく。</p>

検証項目	<b>5 (体) 健康・体力</b>	
目標	基本的な生活習慣の確立	
取組	体力向上について各学校の各学年に課題になっている運動に関連する運動領域を指導する際に課題となっている運動が高まっていくような運動の単元を通じて帯で取り組む。	
	成果	課題と改善方策
	<p>小学校においては、「子どもの体力の課題を理解してその克服に取り組んでいる」と答えている教員が85%を超えており、昨年度数値の低かった種目で改善されているものも見られる。</p> <p>中学校では、生徒の体育祭・マラソン大会への取組評価が高く、自主的に練習に取り組む姿も多々見られた。体力向上に関する取組でも、70%以上の生徒が肯定的回答をしている。部活の加入率も89%と高い。</p>	<p><b>【課題】</b> 全国や都の平均を下回る学年・項目が見られる。特に、小学校高学年女子が顕著である。</p> <p><b>【改善方策】</b> 体育授業の改善とともに、マラソン、縄跳びだけでなく日常的に運動に取り組む機会を意図的に設定していく。 また、家庭とも連携し、規則正しい生活等、健康意識の向上を図るとともに、児童・生徒自身が自ら体力の向上を意識して取り組むような態度も醸成していく。</p>

検証項目	<b>6 特色ある教育活動</b>	
目標	地域人財等を活用した活動の充実	
取組	平成30年2月に開催された地域人財の皆様との懇談会で明らかになった教育資源を活用して各校で具体的な実践を進める。	
	成果	課題と改善方策
	<p>地域の教育資源について再確認、整理をしていただき、教員がそれらを意識して活用し、児童・生徒の約80%がそれらを活用した授業が楽しいと感じている。</p>	<p><b>【課題】</b> 活用は定着しているが、必要な場面に必要な人財・資源を必ずしも提供できていない。</p> <p><b>【改善方策】</b> さらにCSとの連携や教員の意識の高揚を目指す。</p>

検証項目	7 学校教育の質の維持向上を目指した学校の働き方改革	
目標	教員のタイムマネジメント力の向上	
取組	校務を見直したり ICT を活用したりしながら、効率化を進め退校目標時刻を 19:30 とする。週 1 日ノー残業デーを設定する。	
	成果	課題と改善方策
	<p>校務、行事、週時程等の見直し、諸会議の効率化等を学校全体として推し進めている。</p> <p>また、教員一人一人が校務改善の目標設定をして実行するなど働き方改革への意識は高まっている。勤務時間もわずかではあるが、全体として短くなってきている。</p>	<p>【課題】</p> <p>会議の精選等、校務全体の見直しを図っているが、目標である在校時間週 6 0 時間以内の達成には至っていない。</p> <p>【改善方策】</p> <p>校務支援システムの積極的な活用や会議の見直し等をさらに推し進め、児童・生徒たちと向き合う時間の確保や在校時間の縮減を引き続き目指していく。</p>

## 平成 30 年度 おおさわ学園の評価・検証結果のまとめ

(1) から (7) の検証結果を踏まえて	1 「小・中一貫教育」及び「コミュニティ・スクール」の取組において特によい成果が得られたこと
	<p>学園 10 周年の様々な活動を通して、児童・生徒の一体感が高まった。その成果を地域・保護者に発表し高い評価を受けた。</p> <p>コミュニティ・スクールとしての活動も定着し、人財の確保、学習サポートの活用等が安定して実施できるようになった。</p>
	<p>2 今年度に明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童・生徒の学力については、少しずつ伸びてきているがまだまだ改善の余地がある。学園研究で授業を中心に据えて学力向上を目指す。</li> <li>CS 委員が改選期を迎え次年度から新しく委員となる方が増え、活動の引継ぎと学園・学校とのさらなる連携強化が課題である。</li> <li>教育の質の向上を目指した働き方改革が叫ばれているが、会議の精選や在校時間の短縮が進んでいない。</li> </ul>
	<p>3 「2」の重点課題を解決するための改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「学力向上を目指したおおさわ学園カリキュラム作り」をテーマとして、授業研究を中心にして学園研究を推進しながら学園としての一体感を高める。</li> <li>継続の委員の役割分担の工夫や「委員のための活動ハンドブック」を活用して円滑な引き継ぎを進める。</li> <li>校務支援システムの活用や会議の見直し等を行い子供たちと向き合う時間の確保や在校時間の縮減を目指す。</li> </ul>